

白浜レスキューネットワーク通信 11月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

http://srnw.or.jp

e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

11月1日～11月30日

電話件数 244 件

メール相談 4 人

保護件数 8 件(男性 5 名、女性 3 名)

帰宅件数 4 件(男性 2 名、女性 2 名)

○13日、男性と女性を別別に保護。女性は翌日に帰宅。男性は、しばらく滞在することになった。

○18日、男性を保護。25日帰る決断をし帰宅。

○20日、夕方、男性を保護。共同生活へ加わって様子を見ることにした。夜、女性を保護。一旦出てきたところに戻って生活を立て直すことになった。翌日帰宅。

○21日、ストーカー被害に悩む女性を保護。近くの宿泊施設に連泊しながら、当NPOに通い、ストーカー行為が続くか確かめることになった。

○22日、若いブラジル人男性を保護。家族のために働き続けたが、報われず、疲れたとのこと。兄と連絡がつき、兄に会うために翌日帰宅した。

○29日、男性を保護。家賃を滞納し追い出されそうだったとのことだった。仕事は細々ではあるがあった。翌週の火曜日にもう一度会う約束をした。

生活自立支援活動

11月1日～11月30日

滞在者数 17 人(男性 13 人、女性 4 人)

自立件数 1 件(男性 1 名)

○13日に保護した男性は、すぐに職安に行き、18日に面接を取り付けた。しかし、面接を前に、荷物を置いたまま、急に行方がわからなくなり、そのまま帰ってこなかった。面接にも行ってな

かった。

○18日に保護した男性は、協調性がなく、共同生活に入りきれないまま、自分の良かれと思うことをしては、人に認めてもらえないことで傷つくことを繰り返した。警備会社に就職を決めたが、25日、結局、母親のもとに帰る決断をして帰って行った。その後、母親から無事に帰宅したと連絡があった。

○グループホームへと移った男性は、毎週木曜日夜、バイオリンの練習に来ている。グループホームでの生活は、周りに面倒を見ないといけない人がいて大変だとのこと。共同生活していた時よりも素直に色んなことを話してくれるようになった。

○10月2日から、スタッフとして関わってもらっている男性は、まちなかキッチンで働きながら、共同生活の中で支援する側に回ってもらっている。

○先月3日から再度共同生活に加わった女性は、昼食の準備に携わることにした。俳句や童謡唱歌などにも興味があり、各集まりに参加している。娘のことを行政に委ね、自分の人生を豊かにしていくことを励ましている。

○先月9日に保護した女性は、少し認知症が出始めているのかもしれないと気をつけている。○先月26日に保護した男性は、ゆっくり、確認しながら、ステップアップをしていくことにした。

○コンビニとまちなかキッチンで働く20代女性は、昼からもコンビニの仕事が入るようになった。

○デイサービスに週3回行き、ヘルパーがほぼ毎日入っている80歳の男性は、安定した生活を送っている。食欲もあり、睡眠もしっかりと

れているようだ。食事のたびに食卓を和ませる男性の存在は、周りに良い影響を与えている。
○先月バス会社に就職を決めた男性は、8日初出勤だった。しかし、その日のうちに就職を見送ることになった。入社手続きの際、給料を受け取るための通帳が必要になったが、詐欺に使われた本人名義の通帳があることが分かったためだ。鎌倉警察署がその手続きをしたことが分かり問い合わせた。本人が詐欺に携わった証拠はない。しかし、通帳は使用停止を解除するわけにはいかないとのことだった。身辺整理から始めるしかない。

○糖尿病を患っている男性は、白浜荘(共同生活をしている物件の名称)で、特別変なことがないか要になっている。外への就職活動は継続中。

○豆腐屋とまちなかキッチンと新聞夕刊配達と3つ掛け持ちしている男性は、新生活を始めても6万円の貯金を毎月続けている。

○まちなかキッチンとホテルの仕事を両立させたいと思っていた男性は、進展なし。

○言葉に気を付けている男性は、随分と周りが見えるようになっただけでなく、物事に対する焦点もあってきた。

○まちなかキッチン総菜部門での仕事を始めた女性は、心の状態は一進一退を続けている。人との関わりの中では笑顔があったりするが、一人になると落ち込むようだ。

○7月初めから共同生活に加わっている男性は、まちなかキッチンでの一時間で済む仕事を任せ始めた。洗い物や配達だ。少しずつ広げて行けたらと思っている。空き時間には必ず掃除や片付け、草引きなどを行っている。

○2日就職が決まり4日から働き始めた男性は、8日、ホテルの寮へ引っ越した。まだ共同生活をした方がいいと思うが、各種相談機関から本人へのアドバイスもあり、こちらの反対を押し切る形で引っ越した。仕事を続けられるかはここからが勝負なのに、関われない距離を開けられてしまった。

○5月から滞在している男性は、脳神経外科を受診。今月は整形も受診。薬を飲みながら、とにかく体を動かすように勧めている。

○心筋梗塞で倒れた男性は、引き続き入院して

いる。今後生活保護も視野に入れていく必要が出て来た。

○8日、以前自立した男性が家族旅行で白浜に来た。教会に立ち寄ってくれたことから、同じように共同生活を経験し、今は白浜で自立生活を送っている男性とも再会を果たした。

○20日に保護した男性は、近くの清掃業の仕事に就職を決めたが、30日に両親が迎えに来て、一緒に帰ることになった。

自殺予防活動

・相談電話

6日、13日、20日、27日に行なった。今月も1人の相談員が休まず電話相談にあたった。

・少年少女漂流隊

5日、白浜第一小学校のクラブ活動に出前事業を行った。

・はじめ人間自然塾



秘密基地作りで壁を作り始めた。

・CSコペルくん

西富田小学校の子どもたちが5名集まるようになった。

CSコペルくんで、芋ほりに出かけた。



地域の方のご協力のもと、楽しいひと時になった。収穫した芋で焼きいも、スイートポテトなど楽しんだ。